

2019年度 インシデント・アクシデント一括公表

1 インシデント

レベル	件数	説明
レベル0a	2360件 60.30%	誤った行為が発生したが、患者に実施される前に発見された場合 仮に実施されていても患者への影響は小さかった(処置不要)と考えられる事例
レベル0b	593件 15.20%	誤った行為が発生したが、患者に実施される前に発見された場合 仮に実施されていた場合、身体への影響は大きい(生命に影響しうる)と考えられる事例
レベル1	832件 21.30%	誤った行為が実施されたが患者への影響が認められなかった事例(例：薬の与薬時間が遅れた等)
レベル2	81件 2.10%	誤った行為が実施されたが、処置や治療は行なわなかった事例(例：転倒で打撲した箇所のレントゲン検査を行った等)
レベル3a	31件 0.80%	簡単な処置や治療(皮膚の縫合、消毒、湿布、鎮静剤投与等の軽微なもの)が必要になった事例

2 アクシデント

レベル	件数	事例概要	
レベル3b	11件 0.30%	○濃厚な処置や治療を要した事例(バイタルサインの高度変化・人工呼吸器装着・手術・入院日数の延長・外来患者の入院等)	
		(事例の概要)	(再発防止の取り組み)
		・術野に切断したドレーンがあることを見逃し再度手術にて取り出した。	・手術室でのレントゲン写真の確認は2名以上で行い、確認者の氏名を記録に残すルールとした。
		・MRI撮影中に呼吸停止を起こし救命処置を実施した。	・異常にいち早く気づけるようモニター装着対象患者基準を設け運用を開始した。
		・手術後体位調整により下肢の神経が一時的に麻痺した。そのため退院を延期した。	・体位枕による圧迫の注意事項を体位枕に明記し、その内容を確認しながら介助する。
		・手術中の止血操作中、副損傷が生じ手術を行った。	・慎重に止血操作を行う。
		・せん妄対応薬剤による過鎮静により、意識状態が一時低下し人工呼吸器を装着した。	・精神科医師が推奨する不眠時・不穏時の薬剤治療を参考に指示が出せるよう、電子カルテ指示内容に明記する。
		・内視鏡中穿孔を起こし、手術を行った。2件)	・慎重に操作を行う。
		・転倒により骨折をしたため、退院を延期した。	・転倒の危険性を患者がわかりやすい言葉でひとりで動かないように説明をする。
・転倒による手術部位の傷害のため、手術を行った。	・センサーマット等に使用により患者の動きにいち早く気づき対応する。		
・転倒により骨折をしたため、手術を行った。			
		・挿管入れ替え時、呼吸状態が悪化した。	・挿管入れ替え時、対応に不安がある時は対応に慣れている医師に相談する
レベル4a	0件 (-)	○永続的な障害や後遺症が残ったが、ADLを害する機能障害や美容上の問題は伴わない事例 ・なし	
レベル4b	0件 (-)	○永続的な障害や後遺症が残り、ADLを害する機能障害や美容上の問題を伴う事例 ・なし	
レベル5	0件 (-)	○行った行為が死因となった事例(原疾患の自然経過によるものを除く) ・なし	
計	3910件 100%		